ベストピア
Bestopia
2016年12月号
第358号
bestopia.jp
パリ通信
第60号

快聴快談

はじめに

ここしばらく日本の現代史を学んで暗い話しが続いていますが、今月はクリスマス直前になりましたので、快な話題とします。

現代史は「1941年」で歩みを止めています。自分が生まれた年の事の大きさと多面性を限られた字数？で表現するのに苦心しております。

10月から11月にかけては現役時代に戻り「すこぶる大きなプロジェクト」と取り組み成功させました。ホテルでの生活も最長を記録し、体力の限界を気力で乗り切ったという感じですが、一度は階段でうずくまり周りの人に助けられ、眠れない夜、腹立たしい夜の次の日には腹痛が止まらず、それでも主催している約束のプロジェクトは進めねばならず、倒れることを覚悟して臨みました。

12月は9日から16日まで5つのホテルに泊まるという忙しい海外旅行並みの列車の移動をして17題と15題の講義と発表を拝聴する機会が与えられました。一日8時間神経を集中して人の話を聴くということには自信がありませんでしたが今回それが出来たばかりか、特に後段ではメモを取ることができました。若い人の早口の講義のメモを取るのは容易ではありません。的確なフィードバックが求められていましたので真剣に集中して耳を傾け手を動かし結果を纏める根を詰めた時間を過ごすことができました。帰宅した翌朝は4時に起床して約束のレポートを書きあげることができました。この私にとっての快挙には新しい武器があったのです。

耳鳴りの治療

私は20数年前から耳鳴りに苦しみ、自分に出来るあらゆる方法を試みましたが治癒しませんでした。最後の望みを新田清一先生の「耳鳴りの9割は治る」という著書にみいだし宇都宮まで３ヶ月毎週通院しました。この３ヶ月は耳鳴りよりも補聴器治療が恐怖でした。

左はオハラの補聴器です。
実物大より少し小さい写真です。雑音を拾わないように耳栓が付いています。
市販では付いているかどうか分かりません。病院指定です。

SIEMENSです。
周りが静かなところでTVを見るのは快適です。
360°の音を拾う優れものです

治療方法が補聴器をつけるということで、私に合った補聴器を毎週言語聴覚士の先生に調整していただき脳を訓練する（不安･恐怖を感じる脳の訓練）、まさに自分との戦いとなりました。２週間は発狂するのではないかと思うくらい辛かったです。新幹線の音、東京駅八重洲口のビルからの廃棄口からでる騒音と自動車の音で会話が出来るどころではありませんでした。タクシーに乗るとタイヤと地面が擦れる音の大きさにビックリ、運転手さんとの会話は困難でした。自宅では生活音がもろに耳を直撃します。一番助かったのはテレビの音が聞きやすくなったことで、居間から集音器が消えたことです。３週間目からは脳が訓練された効果が現れ苦痛の度合いが減少し始めましたが「耳鳴りは消えません」でした。３ヶ月経過後は６ヶ月、１年と面談期間が空きます。１２月３日が３度目の面談日でしたが風邪をこじらせ延期しているところです。

妻からの朗報

12月の始め妻が楽しんでいるサークルで発売されたばかりの高性能集音器の現物紹介があり、そのパンフレットを見て、さっそく開発者にお会いしました。相模大野駅の喫茶店で試聴させてもらって、「これは、素晴らしい！！」と周りが驚くほどの大きな声を発してしまいました。周りの人がビックリして私たちをジロと不可思議な目線を送ってきました。

補聴器で苦しんだ者にしか分からない快感を味わいながら、開発者の開発動機やコンセプトを聴かせていただきました。この集音器のおかげで長時間の講義や講演を真剣に聴くことができ、その場では「喜んでいただける仕事」をすることができ満足しているところです。

何が凄いか

私の補聴器は一流の医師が推薦して調整していただいたシーメンス製ですから一級品だ思って使っていますが、耳鳴り治療用ですから、聞こえる音は大きく、360度の雑音を拾う高性能なのです。周りの音を拾いすぎるのでレストランやホテルのロビーでは対面の方との会話が上手くいかず、補聴器をはずして聞き返す会話を余儀なくされていました。
ところがこの開発者の集音器は周りの音を気にしないですみ、対面者と会話ができるのです。補聴器を脱着するときに発生するピーという音も発生しません。再び価値ある情報を提供できることを誇りに思っています。

集音器の名前は「Choju」（聴寿）
開発者は株式会社エース･E&L　代表取締役社長･津田博通
〒252-0328　神奈川県相模原市南区麻溝台6-9-9
電話　042-740-8111
ホームページ　www.ace-el.co.jp

高額な補聴器を捨てていませんか？

聴力補助器

Choju

あなただけの一台をお手もとで調整

聴き取りやすさを徹底追及しました

- **左右の聴力に合わせて25通りの音質調整が 自分でできる**
  調整のための専門機関通いが不要です
  両耳の聴感バランスをとることで、 耳鳴りが気にならなくなった
  との体験事例も！
- **肉声を聞き分けられる自然で違和感のない音声**
  低音も高音も犠牲にしない広帯域な音質特性です
- **あなたの聴力に合わせて最大音量を設定**

- **両耳，片耳 兼用方式**
  片耳の場合はイヤホン1のみ

- **新構造のマイクユニット**
  ノイズの少ない新型マイクを採用
  衣ずれ音やハウリング（ピーピー音）
  を軽減した新構造
  ← ウインドジャマー（風防）付

この性能でこの価格！

29,700円（税込）

- **安価で簡単な単4乾電池1本**
  連続で約１００時間使えます
  節電タイマーでさらに長持ち

実物寸法；横58㎜・縦65㎜・厚み17㎜、重量52g（電池イヤホンを含む）

以下に津田博通氏の開発動機とコンセプトを要約して記載します。

１．開発を始めた動機

私は（津田博通･以下同じ）18歳で田舎から東京に出てきて以来、毎年お盆休みに帰省し、親類の家を訪問し、お線香をあげています。このとき従兄の家を訪問しますが、従兄の耳が聞こえず会話にならないことが長い間気がかりなことでした。この従兄は、三陸海岸の魚村で毎日新聞を読み、TVを見ている生活です。TVは耳が聞こえないため、ただ画面をみているだけです。家族とも会話ができません。昔の漁師の年金は少額で、補聴器のような高額商品を購入できません。購入できたとしても、高齢者が三陸海岸の山道を車で走って毎月音質調整のため病院などの施設に通うことはできません。このため、年金暮らしの人が購入できる値段で、自分自身で音量、音質を調整できる集音器（Choju）の開発を考えました。自然で楽しい生活を取り戻すには、まず他人と会話ができる環境を作ることが大切と考えています。話しができて他人と交流ができれば、アルツハイマーの防止にも役立つと信じています。

２，開発のコンセプト

年金生活者が購入できるようにコストを安くすること。

自分自身の耳に合わせて音量、音質を調整でき、十分に他人と会話ができる商品であること。

音が聞こえるだけの商品ではなく、他人の声が聞きわけられる商品であること

[GHOJU]は一見不格好ですが、使い始めると良さが分かります。それは使いがってが良いからです。

現在市販されている補聴器は高額です。ある資料には、高額な補聴器の４台中３台が使用者にあわず、使用されずに捨てられていると記載されています。使用されているのは４台中１台のみです。このことは、いかに人間の耳に聞きやすい音を作ることが困難なことであるかを示しています。

その他詳しい資料がありますが興味あるかたは直接電話して更に詳しい情報を入手することができます。
紹介者オハラと言って下さるとスムーズかも知れません！

使用の実感

使用して感じることをもう少し付け加えます（オハラの感想です）

①メカニカルな特徴

私のシーメンスの補聴器は軽く外見は他人から見ても装着していることが分かりません。ということはここに最大の問題があることに気づいたのです。耳かけ式の軽い物体の中にイヤホンとマイクの双方が無理やりに押し込まれているということです。ハウリングが発生するのは当然ですがハウリングを最小にするための工夫がされればされるほど合成音になってしまいます。コンサートでは使えませんでした。
Chojuは不格好ですがマイクとイヤホンが離れています(有線）からハウリングはなく自然な音が聞けます。

②経済性

単④乾電池で100時間（連続）使用できます。特別の電池ではありません。旅行に出るときに電池の心配から解放されました。
本体が2万9700円は私の場合は4台分です。噂によりますと30万円の補聴器もあるとのことです。

③性能の満足度

25通りの調整ができるので場面によって自分で調整ができます。今回ホテルで祝宴の席でテノール歌手の歌を聞かせていただきましたが、5㍍位の距離で装着のまま聞きました。ピアノの伴奏まで実によく聞き取れました。

最後に留意事項です。

私オハラは耳鳴りの治療で病院で診断を受け、単なる耳鳴りと診断されました。癌とかの病名がつかなかったという意味です。医師の診断があると他の病気のことを思い煩うことなく安心できます。
耳鳴りの治療ということで「音量」は医師の指示に従いました。自分勝手に音量調整できない補聴器です。
Chojuは自分で音量･音質が調整できます。自分に合わせられますので快ですが、耳鳴りの変化は数ヶ月位後でないと分からないと考えています。開発者は試聴体験から効果があると仰っています。

初めて補聴器を使われる方はどこかのお店で市販の補聴器の聞こえ方を経験･実験されることを大いにお勧めします。高額商品ですからその場で買わされるということは少ないと思います。比較しないと良さは絶対に分かりません。

開発者の言葉にもありますように不格好です。
イヤホンを付けていることが誰にでも分かります。
人と話すときは、先ず、これは音楽を聞いているのではなく、補聴器ですと断って会話をする必要があります。
ホテルの祝宴の席では「それは何ですか」と問われました。話題になりますが、そのような会話が嫌な人にはお勧めできません。

不格好ですが、実に「快」です。

今、ワクワクしていますのは次のコンサート会場でどういう注意を受けるかです。周りの人に補聴器と認識してもらえなかったらチクられるでしょうね。呼び出されて説明することになるのを楽しみにしています。
サントリーホール･東京文化会館･みなとみらいホール･新国立等で有名になるかも知れません。その時は又報告します。